



KMU 金沢医科大学氷見市民病院

| 広 | 報 | 誌 |



氷見 かけはし

KAKEHASHI

患者さんと病院と
地域をつなぐ広報誌

KANAZAWA MEDICAL UNIVERSITY
HIMI MUNICIPAL HOSPITAL



射水神社

TOPICS ● トピックス

新年のご挨拶

CONTENTS ● もくじ

TOPICS 新年のご挨拶	P.01
坂田先生の診察室から	P.03
診療コラム	P.04
病院★ニュース	P.05
病院からのお知らせ掲示板	P.06
まちかど情報	P.07

病院の理念

私たちは「生命の畏敬」を医療活動の原点として
次のような病院を目指します。

- 医療人としての研鑽に励み、患者さん中心の医療を実践します。
- 住民の健康と生命を守る中核病院として、安全で質の高い医療を提供します。
- 地域の医療機関と協力し、地域の医療福祉の向上に貢献します。
- 将来の地域医療の担い手となる有能な医療人を育成します。



新年のご挨拶

最高経営責任者（CEO）

川上 重彦



皆 様あけましておめでとうございます。年末・年始はあまり天候も荒れず、穏やかな新年を迎えることが出来たかと思えます。

さて、昨年を振り返りますと、世界では相変わらず各地で一般市民を対象としたテロが吹き荒れ多くの方々が犠牲となりました。また、隣の朝鮮半島では不安定な政情が続いています。北では核ミサイル開発を巡って米国と北朝鮮が一触即発の緊張状態が続いており、南の韓国では朴前大統領が弾劾・逮捕され、新しい大統領が選ばれておりますが、日本と

の関係は良好とはいえない状況が続いています。

一方、国内をみますと甚大な被害をもたらすような大きな災害もなく、比較的平穏な一年ではなかったかと思えます。そして、陸上の男子100mにおいては、桐生祥秀選手が日本人として初めて10秒を切り、卓球、バドミントン、水泳、スケート、スキーなど多くのスポーツで日本の若者が世界の頂点に立ちました。また、天皇家におかれましては、平成天皇の生前ご退位や秋篠宮家眞子様のご婚儀が決まりました。国民にとって大変喜ばしい事が多かった1年ではなかったかと思えます。そのような2017年において、その世相を表す漢字として「北」が選ばれた事はご存じかと思えます。その理由として、北島三郎さんの持ち馬であるキタサンブラックが天皇賞を取ったとか、ドラフトで早稲田実業の清宮幸太郎選手が北海道日本ハムファイターズに決まり、大谷翔平選手は北海道を出てメジャーリーグに挑戦するとか、そんな理由も取り沙汰されましたが、やはり北朝鮮の核ミサイル開発による戦

争への不安からこの文字が選ばれたのだと思えます。国内が平穏であっても、国外からの脅威がいつ影響してくるかわりません。平穏な状態に満足せず、有事の際への準備も怠らないようにとの戒めの意味も含まれた言葉ではないかと思えます。

さて、病院に目を向けますと、大きな事故もなく1年が過ぎました。病院スタッフの努力の賜物と感謝いたします。残念ながら、診療実績に関しては横ばいから減少傾向という流れを完全に止める事はできなかったように思います。氷見市の人口減少や高齢化、減額傾向にある診療報酬費など、様々な外的な要因もありますが、平成30年は病院スタッフ一丸となつて、これまで以上に取り組まなければならぬ課題と考えています。高島茂樹前CEOが掲げられた、①患者さんが安心して頼れる病院であること、②スタッフにとって働きがいのある病院であること、③地域に貢献できる病院であること、この三点を常に念頭に置いて日々の業務に取り組んでいきたいと思えます。この目標が今以上に達成できれば、課題も克服できるのではないのでしょうか。また、風通しの良い、活力のある職場環境作りも今以上にお願いいたします。病院スタッフに活力がなければ、患者さんはずぐに気がつきません。何か悩みや問題が生じ

たら、自分の中だけで解決しようとせずに報告・連絡・相談する、いわゆる「ほうれんそう」の精神を心がけてください。そのための上司がいます。その上司が解決できなければ、さらにその上司がいます。

最後になりますが、平成30年度は診療報酬改定年度となります。どのような制度改定が行われるか現時点では判っていませんが、当院の主体である7対1看護の急性期病棟の運営についても、その施設基準が変わることが考えられます。この1年間、現行の施設基準はスタッフの努力によって達成してきました。この基準に変更がなければいいのですが、変更がないことを前提とした病院運営には問題があります。「北」という文字が示している様に、状況の変化に十分対応できる対策を行いながら、平成30年度を迎えなければなりません。その対応策の一つとし、この1月より入院患者さんの病棟への割り振りなどで皆様のご協力をお願いすることになります。平成30年は本病院が設立して11年目を迎える年であり、次の10年を見据えて、この1年、皆様とともに活力のある金沢医科大学氷見市民病院を作っていきたいと思えます。皆様のご協力とご支援をお願いして年頭のご挨拶といたします。

病院長

齋藤 人志



明

けましておめでとうござい
す。今年の年末年始は昨年と同
様に暖かく天候に恵まれた日が続
き、大変過ごしやすい毎日ではな
かつたでしょうか。

さて、皆様方には穏やかな気持ち
で新しい年を迎えられたのではない
かと思います。「1年の計は元日にあり
」ということ、皆さんにはそれぞれ
今年1年の計画や目標を定められた
ことと思いますが、当院は金沢医科大学
が指定管理者となつて今年で10年
が過ぎようとしています。

病院の管理運営を担当するよう
なつてあつたという間に10年間が経
過しました。医療の現場では、「2025
年問題」が取り上げられ、人口の減
少に反し団塊の世代の高齢化が進む
ことが予測されるなか、全国的に展開さ

れております地域医療構想という急
性期病床を削減し、地域包括ケア病棟
や在宅医療への移行など、無駄な医療
費を削減し有効な病床の活用を目指
す診療体制の策定が義務づけられて
おります。病院の医療体制も大きく変
貌しなくてはならない時代となつて
きており、ますます病院経営が厳しい
状況に追いやられております。

しかしながら、病院は患者さんのた
めにある施設ですので、病院の体制が
どのような変化を遂げても患者さん
中心の医療を展開することは当然の
ことであり、そのような病院にするた
め全力を傾けたいと思つております。

当院は、地域に根ざした病院作りを
する観点から、病院の医療資源を出
るだけ地域に提供するため毎年様々
な行事を実施しております。昨年の主
な病院行事を振り返りますと、2月に
は「北陸がんプロ市民公開講座」、5月
から11月まで一般市民の方々を対象に
「健康づくり教室」の開催、7月と9月
に地域の中学生を対象にした職場体
験である「14歳の挑戦」8月には「第6
回夏休み親子ふれあい医療フェスティ
バル」、10月には「第10回地域医療懇談
会」など多くの行事を実施しました。
さらに、9月から「ほっとカフェ」を開
設し、地域住民の方々へ医療職スタッ
フによる相談支援を行つております。

今年、これまで以上に病院のス
タッフが一丸となつて患者さんに優
しい病院づくりに励み、地域の中核病
院としての役割を担つていく所存で
ございます。「患者さんを愛せ」、「ス
タッフを愛せ」、「同僚を愛せ」、「病
院を愛せ」の精神で優しく思いやりのあ
る気持ちをスタッフ一人ひとりが持
ち、なんと言つても「患者さんの権利
を考慮した患者さん中心の医療を提
供すること」、「安全で安心なチーム医
療を提供できるように心がけること
」、「地域医療の中心となること」、「そ
して「人の気持ちを思いやり全人的医
療の提供に心がけること」、「職員同士
もお互いに思いやる気持ちを忘れず
に接することが出来る病院」などを常
に心がけて業務にあたる事が私の
目指しているところの病院像であり、
これを実現するために努力を重ねた
と思います。また、ますます充実し
た医療を地域の皆様方に提供できる
ように、病院中期事業計画として「院
内がんセンター」の設置を目指し、放
射線治療装置・PET・CTの導入
についても氷見市との協議を継続し
検討しております。

最後に、皆さんの今年1年のご健康
とご多幸をお祈りし、新年の挨拶とさ
せていただきます。本年もどうぞよろ
しくお願ひ申し上げます。

坂田先生の 診察室から

健康管理センター
教授

坂田 則昭

NORIAKI
SAKATA

平

成29年10月1日より、健康管理センターに赴任しました。今後ともよろしくお願いたします。当センターでは、健康診断、住民健診(特定健診、がん検診)、特定保健指導、企業健診、そして人間ドックを行っております。い



かに元気で暮らせるかという健康寿命を得るには、日ごろから自分の健康状態を把握し、病気の早期発見、早期治療に努めることが重要です。そのためには、定期的人間ドックを受診することをお勧めします。特に、日本人の死因の第1位であるがんの検診があります。胃がんや大腸がんは内視鏡検査、肝臓がんや胆道がん、膵がんは超音波検査、CTスキャン、肺がんは胸部CTスキャン、乳がんはマンモグラフィ検査などがあります。もう一つは、脳卒中や心臓病の大きな原因となっている高血圧、脂質異常症そして糖尿病などの早期発見とその予防と対策です。当院の人間ドックのコースには、簡易ドック、日帰りドック、一泊ドック、脳ドックなどがあります。それぞれにオプションとしてアディポネクチン測定やCAV1(※1)、ABI(※2)、頸動脈エコーによる血管検査などにて、動脈硬

化の程度を知ることができます。また、氷見の民宿で美味しい海の幸を味わいながら、一泊していただき全身の検査を受けてもらう、氷見民宿一泊ドックは好評です。ドックの受診者はおおむね50代以降が多いですが、働き盛りの世代が病気で倒れてしまつては一大事です。ぜひ、40代ぐらいから、1年もしくは2年に1度の受診をお勧めします。健康は人生最大の宝です。人間ドックを通して、あなたの健康と長生きのお役に立てればと思っております。当センターでは知識豊富なスタッフが受付業務にあたっておりますので、いつでもお気軽にご相談ください。

※1 CAV1(キャビイ)は大動脈を含む「心臓から足首まで」の動脈の硬さを反映する指標です。

※2 ABI(足関節/上腕インデックス)は、足関節と上腕間の最高血圧の比率です。

坂田 則昭 ★ 略歴

【略歴】

- ◎ 1977年 3月 山口大学医学部医学科卒業
- ◎ 1977年 10月 金沢大学第2外科医員
- ◎ 1985年 3月 金沢大学医学部大学院修了
- ◎ 1986年 4月 金沢医科大学 一般・消化器外科助手
- ◎ 1989年 1月 公立羽咋病院副院長
- ◎ 2017年 10月 金沢医科大学氷見市民病院健康管理センター長



診療コラム

尿路結石治療センター

平成29年(2017年)9月より新たに体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)の導入(機器更新)を機に尿路結石治療センターを開設致しました。尿路結石症は尿の中に含まれる尿路結石原因成分(主にカルシウムとシュウ酸が結合したものが凝集し結石となり腎臓、尿管、膀胱で



増大してしまう病気です。日本人の尿路結石は食生活の欧米化とともに増えており、全国調査によると40年間で約3倍も増加しています。当院ではこれまでレーザー結石治療装置や圧縮空気破碎装置を導入して積極的に内視鏡下尿路結石の治療を行い、良好な治療成績をあげてきました。この度、新たに体外衝撃波結石破碎装置(ESWL)の導入を機に尿路結石症の治療体制を整えました。再発率の高い尿路結石症を生活習慣病の一つと位置付け、再発予防に向けての生活習慣・栄養指導などを中心に医師、管理栄養士、薬剤師、看護師が協力し総合的な医療を提供することにより患者様の健康増進に少しでもお役に立てるように努めさせていただきます。



第9回広げよう ブルーサークルの輪 in ひみ

平成29年11月11日(土)午後2時から6階多目的ホールにおいて「広げようブルーサークルの輪 in 氷見」と題して市民公開講座が開催されました。

11月14日はインスリンの発見者フレデリック・バンティングの誕生日にちなみ、世界保健機関(WHO)が1991年に定めた「世界糖尿病デー」です。当日は世界各地でブルーライトアップが行われ、また、この前後には糖尿病に関する様々なイベントが開催されています。

当院でも、増え続ける糖尿病に関して一般市民に予防と治療についての正しい知識と理解を深めてもらうため、講演会を中心に毎年開催しています。第9回の今回は約50名の参加がありました。

最初に当院リハビリテーション部のセラピスト2名による「運動のすすめ」と題して講演が行われました。有酸素・無酸素運動だけでなく日常生活の中の動作(草むしりや掃除など)も筋力の維持に効果があることを、実技を交えながら学びました。



主講演として、講師に金沢医科大学

内分泌・代謝科准教授の金崎啓造先生をお迎えし、「糖尿病合併症予防・治療のエッセンス」と題して講演が行われました。

講演では、「合併症の予防」や「最新の治療法」などについてわかりやすくご講演をいただきました。

参加者も、熱心にメモを取り、改めて患者と医師が協同で治療、予防していくことの重要性を感じている様子でした。なかでも、「合併症予防を目的に血糖やHbA1cを調整することが必要」とのお話に対して、「低ければよいわけではないのか」などの感想が聞かれ、参加者の興味を引く講演であったことが感じられました。

またロビーでは、看護師による血圧測定や健康相談、管理栄養士による減塩食、低たんぱく食品等の紹介が行われました。参加者は、パンフレットを手取るなど、興味深げに説明を受けていました。

※HbA1c(ヘモグロビン・エーワンシー)

ヘモグロビンの分子にグルコースが結合したもので、過去1〜3か月間の平均血糖値を反映するため、糖尿病管理の指標として用いられる。

『weblio辞書』(三省堂)より引用

第5回 腎不全患者家族研修会

平成29年11月5日(日)に当院6階多目的ホールにて当院に通院中の腎不全患者さんとそのご家族の方を対象とした研修会を開催しました。この研修会は今年が5回目で、血液浄化センターの齋藤淳史センター長より開会の挨拶

があり参加された患者さんご家族に感謝の意が述べられました。講演は前半と後半に分かれており、前半は中村美穂老人看護専門看護師から「認知症について」、高原直美ソーシャルワーカーから「患者・家族への支援と介護保険制度について」の講演がありました。前半終了後の休憩時間には、腎不全治療に役立つ食品などの試食会が催されました。後半は長谷恵管理栄養士から「透析患者さんの体重管理」、腎臓内科の山崎恵大先生から「便秘について」、守雅之理学療法士から「透析中にできる首と足の体操」の講演がありました。

約70名の参加者は熱心に受講

熱心に受講



されてきました。最後に看護部 中田千鶴師長による閉会の挨拶で約3時間の研修会を終えました。

平成29年度 在宅医療推進 市民フォーラムに参加して

平成29年11月23日(木)に公益社団法人氷見市医師会と氷見市地域包括支援センターが主催し、在宅医療推進市民フォーラム「ずっと家で過ごしたいーみんなで支える在宅医療・介護ー」が開催されました。今回は当院職員も運営スタッフとして参加し在宅医療について学びました。

初めに、第一部では氷見市医師会高木義則会長が講演され、「氷見市は高齢世帯が多く、今後在宅の患者の増える中で、介護する人の高齢化も進み介護力が低下すると思う。その中で、医療・福祉・介護など多職種連携強化が必要である」とお話されました。

また第2部では、自宅での療養生活を送る中で実際に

関わる医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカー、介護士、福祉士、栄養士、理学療法士、作業療法士、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士、臨床心理士、社会福祉士、介護福祉士、介護支援専門員、介護職員、介護職員(居宅介護)等が参加し、在宅医療の現状や課題、在宅医療の推進方法について話し合いました。



病院運営の基本方針

1. 患者さん中心の病院運営を行います。
2. 安全で信頼される医療の提供に最善を尽くします。
3. 患者さん・ご家族への「説明と同意」を徹底します。
4. 高度医療、質の高いチーム医療を推進します。
5. 地域の中核医療機関として地域医療連携・支援を推進します。
6. 良医の育成と医療人の教育・研修を推進します。
7. 働き甲斐のある健全で活力ある病院づくりに努めます。

患者さんの権利

当院は医療の中心は患者さんであると認識し、患者さんには次のような権利があることを宣言します。

- 安全で良質な医療を公平に受けることができます。
- 病気や治療内容について、分かりやすい言葉で説明を受け、ご自分の希望や意見を述べるすることができます。
- ご自分の意思で治療方法や医療機関を選択することができます。
- 診療記録の開示を求めることができます。
- 他の医療機関に受診することを希望されるときは、必要な情報提供を受けることができます。
- プライバシーは尊重され、個人情報には厳重に保護されます。
- 臨床研究に関して十分な説明を受けたうえで、その研究に参加するかどうかご自分の意思で決定できます。また、いつでも参加を取り消すことができます。
- 治療に関する自己決定の参考にしていただくため、セカンドオピニオンを受けることができます。

患者さんへのお願い

当院は、地域の中核病院としての社会的使命を果たすため、様々な医療を提供しています。患者さんには、次のことをご理解いただき適切な医療を行うためご協力くださいますようお願いいたします。

- 健康状態、その他必要なことを可能な限り正確にお話してください。
- 説明を受けてもよく理解できない場合は納得できるまでお聞きください。
- 治療を受ける場合は、医療スタッフの指示に基づき療養してください。
- 病院のルールを守り、他の患者さんの迷惑にならないようご配慮ください。
- 教育病院として、医師、医学生、看護学生、医療専門職の学生、救急救命士などの臨床実習・研修教育を行っております。厳重な指導のもとに実施していますので、ご理解とご協力をお願いします。

まちかど情報

大雪について

今年に入りまた暖冬かとおもいきや、高岡伏木で87センチ、氷見では69センチと大雪となり、交通への多大な影響がでました。雪には十分慣れている私たちでも悪戦苦闘する数日間でした。除雪車に対応しきれないくらいのスピードで雪が積もり、出勤にも大きな影響を及ぼしました。仕事に行く前・仕事が終わった後、懸命に車に積もった雪おろしや除雪など疲労困憊。これは2011年(平成23年)以来6年ぶりの豪雪だそうです。まだまだ寒い冬が続きますが雪はもう十分です。



エコロジーガーデン ecology garden

当院では、院内緑化をすすめ、来院された患者さんやご家族の方々に安らいだ環境を提供できるよう努力しております。この院内緑化は、下記のスポンサー企業の協賛のもとに維持運営を行っております。

スポンサー企業

- 南アカシア商会 ● サカキ産業(株) ● たんぼ薬局氷見店 ● ニッショク(株) ● 日本海綿業(株) ● (株)ビー・エム・エル ● ファーマライズ(株) ● 氷見伏木信用金庫 ● 北陸コカ・コーラボトリング(株) ● (株)山下設計 ● 米沢電気工事(株) ● 菱機工業(株) ● 株式会社ワールドシンコー



表紙について

「射水神社」

射水神社は1875年に二上山麓から現社地(高岡城本丸跡)に遷座され、越中国唯一の名神社に選ばれ、県内でも格式が高い神社です。主祭神には瓊瓊杵尊(ニニギノミコト)が祀られています。瓊瓊杵尊は、商売繁盛と五穀豊穡の守り神で、人々に富を与えたことから、金運スポットとしても親しまれています。元旦には歳旦祭を行い、厄払いや家内安全などを行っています。

編集後記

鉛色の空。文字を見るだけでさえ重苦しさを感じる。金沢出身の私にとって見慣れた風景ではあるが、やはりうっとうしいものである。氷見に赴任して2回目の冬を迎えたが、この重苦しさが心身だけではなく、長距離通勤の私にとって、事故の心配や時間の計算も出来ない。何時に到着できるのだろうか。しかしながら氷見は鮭をはじめとする冬の魚介類が豊富で、例えば鱈の白子は寒さが増し、ピンク色から白味がかって来ると一段とうまみを増してくる。これに加え、病院職員はもとより、患者さんを含めた街の人々の心温かさを強く感じる。これで今年も冬を乗り越えられるかな。冬来たりなば春遠からじ。

かけし冬号編集委員 薬剤部 山下 徹

■広報誌「かけし氷見」の由来

広報誌が患者さんと病院、地域と病院をつなぐ「かけし」となることを願って命名されました。